月報　第一八号　バッハ合唱団　一九六三年一一月

東京バロック音楽協会クリスマス音楽会への参加にちなんで……

服部幸三

クリスマスのおとずれとともに、われわれは古い年を去り、新しい希望の年を迎えます。みなさまが、クリスマス・オラトリオを歌われたあと、ふたゝび私の主宰する東京バロック音楽協会のクリスマス音楽会に参加してプレトーリウスとバッハを歌われるのは、大変喜ばしいことです。

合唱指導の森井さんとは、ライン河を一筋はさんで、来る年ごとにクリスマスと復活祭を送り迎えましたが、クリスマスの想出として何より懐しいのは、モミの小枝の丸い環に赤いローソクを四本ともした待降節のクランツのほのぼのとしたまたたきと、晴れやかな鐘の音とともに鳴りわたるクリスマスのコラールでした。

こんどみなさまに歌っていただく四曲のコラールは、数百曲にのぼるドイツ・プロテスタントの会衆歌の中でも、もっともすぐれた宗教的な民謡としての性格をもっています。まず「たのしき歌もて」は、十四世紀ごろから南西ドイツのシュヴァーゲン地方で、いつとなく歌われるようになった宗教的な民謡で、十六世紀ルーターの時代に、会衆歌の位置に高められました。「いと高きところより」は、クリスマスの民衆の歌ごえに、ルーターがみずから手を加えたもの、最後のバッハのカンタータの終結コラールは、クリスマスの小供の歌から起っています。もう一つ印象深い美しいメロディーをもつ「たえに美わし暁の星」は、そういえば森井さんの居られたアルザス地方からはじまって、全ドイツにひろがっていったコラールです。

プロテスタントの二人の大作曲家によるこれらのコラールの編曲が、みなさまの真摯な合唱を通じてクリスマスの福音と喜びを、聴衆の胸に刻みつける日も、もう目近に迫ってきました。団員の皆さまの御健康を祈ります。

クリスマスオラトリオ解説(2)

クレッチュマー
B2 山下宏之 訳(抄)

第1部の壮麗な冒頭合唱では、主題の構成が全く簡素であるのはさすが名匠にふさわしい。全員の喜びの叫びで主題が始まる。その次に中心となるいくつかの考えが隠くことなくはっきりと定義される。それらの関係は高貴さと堕落の関係である。中間部の動きは静かな敬けんな黙想の雰囲気となり、主題を各声部が順番に歌い上げていく。

この序曲ともいうべき合唱が終ると、テノールの独唱が福音書の物語を開始する。ここで大切なのはメロディーではなく、バッハの作品の底に流れているクリスマスの祝祭についての考え方である。バッハの考えは、キリストの人間性とキリストの神性との対比ということに集中していた。そしてバッハの感動の根幹となっているものは人類の救い主によって行なわれた献身について深く考えた結果の思想にあるのである。主であり、王である神の御子の光輝はバスのアリア「大いなる主よ、きみよ、いとしき

S 松本

救い主なれば」に実質的に集約されている。

第一部の中の主要なものは「主は地にきたれり、まずしきさまにて」である。これはバス叙唱とコラールの非常に巧妙で大きな効果のある融合である。遠くから歌っているようにソプラノ声部は素朴なフルートを思わせる伴奏で「主は地にきたれり、まずしきさまにて」と歌う。一方バスは前の方に立って深く敬けんな注釈をその上に加えるのである。第1部が終る前（最終曲）に、本当のクリスマスのコラール「いとしきみ子イエスに我らはめぐり会う」。これは合唱により全く簡単に歌われる。

第2部では、我々がクリスマス季節にいつも経験するのと同じ光景と音楽が我々を喜ばせ、同時に最大の厳粛さと魅力とを与えてくれる。このクリスマス2日目の音楽は全曲の中でも最も重要な部分である。最後の合唱や、アルトの詠唱や、パストラールなどは決して忘れることができない部分を持っており、全くこれらからしか得ることのできない感動である。

このことは特に最初のパストラールについていえる。たとえバッハが一生のうちこの曲しか作らなかったとしても、その名を永遠にとどめるのに十分であろう。この曲こそは自然の中の詩とキリスト者の崇高な霊感が結びあって一致している。愛情深く敬けんな牧歌であり、空想に満ちていて、しかも本当につつしみ深く、音楽による詩としては他にかなうものがないであろう。それでいて曲の組み立てや進め方がこれ以上できない位に簡単であり平易である。有名なアルト詠唱「ねむれいとしきみ子よ」に続いている2つの作品は完全に劇的であったり、また部分的に劇的であったりする。最初の合唱の「はえあれみ神には」は天使のみにより歌われる。それにもう一つのコラール「み使いとともにわれらほめ歌わん」は羊飼いと天使の両方によって歌われ、会衆も一緒に歌う。バッハが「地には平和を」ということばに曲をつけるときはいつも無類に美しく感動的な感じに仕上げることに成功しており、常に新しく驚嘆させるような効果をもたらすのである。

演奏会のためにはこのあとに続く4つのカンタータは圧縮する必要がある。それは、時間の問題と演奏者の疲れの問題からである。そのため最初の2つのカンタータと同じ長さか、同じでないときもほぼ同じぐらいに切り捨てられるのが普通である。削除と採用の仕事の基準としては第一に説話の順序と話される事実の重要さに基づかなければならない。この理由でカンタータ一曲全部を削除することはできない。なぜなら各々のカンタータは話の一部分を担当しているからである。3番目のカンタータは羊飼いによる幼児キリストの発見をとりあつかっており、4番目のカンタータは割礼の話をとりあつかっている。最後の2つのカンタータは東の国から賢い学者達が来たことと、ヘロデ王の策謀を取り扱っている。

12月行事

3日（火）バッハギルド第2回演奏会を聴く、尚この演奏会の入場券売上金5500円を、小林道夫氏からバッハ合唱団演奏会費用に寄附された。

4日（水）オラトリオ演奏会総練習。午後6時 立教大学礼拝堂

6日（金）オラトリオ演奏会練習（ソリストのみ） 午後2時 西片町教会

7日（土）クリスマス オラトリオ（バッハ合唱団第3回定期）演奏会 午後6時30分 立教大学礼拝堂（練習は同所で午後4時から）

8日（日）慰労反省会 午後6時 第2練習所

9日（月）客演プロ練習 午後6時 第1練習所

15日（日）一年間のレパートリー復習（カンタータ182、39、104番）午後6時 第2練習所

16日（月）客演プロ練習 午後6時 第1練習所

17日（火）客演プロ練習 午後6時 第1練習所

18日(水) 東京ゾリステン第1回演奏会を聴く
午後7時 文化会館小ホール

20日(金) 客演プロ練習 午後6時 文化会館Aリハーサルルーム

22日(日) 東京バロック音楽協会第6回演奏会客演
午後7時 文化会館小ホール(練習は4時30分)

23日(月) 客演第2夜 午後7時 文化会館小ホール
(集合は午後6時)

28日(土) クリスマス祝会

トキ 午後4時－9時

トコロ 第2練習所 (森井宅)

モッテクルモノ

1 カイヒ 100円 (茶菓代)

2 バンゴハンノオカズ(調理せずすぐ食べられるもの、共同のお皿に盛っていただきます。おむすび・パンは用意しておきます)

3 コウカンプレゼント(手製あるいは50円程度のもの)

4 讃美歌・クリスマスカロル(楽譜係取扱中1部100円)・オラトリオ楽譜

ナイヨウ

カイショク・ガッショウ・ドクショウ・キガクエンソウ (申込みはA2竹田まで)

オネガイ

1 ナルベクミンナデルコト
(森井宅全員収容しきれるかもしれないそうですから)

2 オハナヤオイシイモノナドノキフオ
オススメスルコト

◇来年は5日(日)午後6時新年度年間計画協議会 第2練習所 6日(月)から平常通り練習を始めます。(第1練習所)

○後援会に御入会いただいた方々(11月)

秀村欣二様　秀村千穂子様
細川熊蔵様　鳥居忠五郎様
大庭悦子様　奈良信様
荻久保江慎子様　児玉泰子様
川林篤子様

11月出席統計

	3・4	10・11	17・18	24・25	平均
S	12	10	7	6	8.8
A	12	16	15	8	12.8
T	6	8	8	7	7.2
B	9	9	9	9	9
計	39	43	39	30	37.8

年の暮れに思うこと

森井恵美子

苦しく、たのしい一年でした。苦しいというのは経済面、たのしいというのは人と内容の面です。指導者として、顧問として、又後援会員として、どんなに多くの方々が献身的な御尽力を私たちに与えて下さったことか。また月毎にふえて下さった団員の一人々々が、私を信じてよく支えて下さったことも、私にはおどろくほどでした。この心の共鳴があってこそ、難事業が次々となしとげられてきたのです。この成功に比べれば、お金の苦労などまるで次元の違ったものでしかありませんでした。けれども、折角御好意で協力をいただきながら、お支払いについて御迷惑をおかけしてしまった何人かの方々には、本当に申しわけなく思っております。決して御好意に甘えることなく、来年からはこの面でも健全な軌道に乗せられるよう、努力していきます。

対外的には、私たちの合唱団は、申し分ない成長の途をたどっているように思われますし、内容の面でも、今後経営の正常化に伴なって良い方にどんどん向けてゆくつもりですから、期待して下さってよいと思います。

今ここでは、私がこの一年間を通して感じ、来年はもっとこうなるといいと思われる、団員内部の問題をあげてみましょう。基本的には、私たちの間にはすばらしい相互信頼が成り立っていることを認めた上での、いわばぜいたくな話として――。

ところで、今私は「私たち」といいましたが、これは私と皆さま一人々々との間、ということです。皆さま同士の間では、どうでしょうか。案外、無関心同士が多いのではないでしょうか。

他の人々とわれわれの団員、とを比べてみて、団員だけ特にというのではありませんが、おそらく都会人一般なのでしょうが、人間関係が割合になげやりで神経がゆきとどかないということです。その場その場であたりはよいが、後々のことはあまり問題にしない傾向。これはもちろん仕事についても同様で、一般にやりぬくねばりが少ないのです。なにかを始めてくれる人はあっても、後始末までやってくれる人はほとんどありません。私は、このねばりは、キリスト教の「愛」と大いに関係があると信じています。団員が銘々に、ほんとに気のよい、つき合いやすい人であることは、疑いありません。けれども、善良な人がたとえ何百人集ったって、何事もできはしないのです。そこに意志が生じ、行為がつみあげられるのは、愛の原動力あってのことです。

団員は、ただたのしみに、歌いに集まるのでしょう。それはもっともです。ややこしいことは主宰者とか、しかるべき人に委せておけば大丈夫でしょうし、合唱の他にもっと何をやればよいというのか。

あまり具体的にいうと、責めているようになりますのでまずいとすが、こうなれば、さらに愉快になろうという、例えばの話。何か問い合わせたいような時、私はプリントで一人々々に配ります。返事は皆無のことしばしば。皆さま、よく考えて下さっているのでしょう。でもそれが伝達されない限り、お互いの間には何ごとも生じないのです。長欠の人。私が電話すると、あれこれ、もっともな理由。一言伝えられないものか。又それまで他の団員は何も休んでいた間のことを教えてあげられないのか。お金を集める人は大変です。お金を払う方も大変でしょうが、どうせ出さねばならないものなら、おくれる場合でも何時ごろまでには、と予定を立てていただけないものか。集金の人の苦労を果してどの位感じていただいているのか。

最後に、私が一番不思議に思っていることは、後援会入会者が、全く私の知人か無関係に「おすすめ」をよんで下さった方々かであって、団員からの紹介が皆無に近いということです。もしこの会の制度が批判されるべきものならば、云ってほしいと思うのに、団員の皆様からは沈黙の応答しかないのは、本当に私として判断に苦しむのです。どういうことなのか、とても知りたく思っています。

つまり、万事に、生きた応答、形にあらわれる思いやり、これを、善良な人々ばかりの集まりであるだけに、一層求めたく思うのです。本当にぜいたくすぎるかもしれません。それでも私は、創造的な仕事を一緒にやりぬいてゆく共同体であるためには、このことは望みすぎることはないと信じます。

来年も、美しいこと、よいことをたくさんするために、もっともっと愛し合いましょう。心をひらき合いましょう。そして「表現力」「発表力」を培いましょう。「実行手段」に巧みになりましょう。「つくる」共同体となりましょう。ホモ・ファーベル……